

第79回 上海博楚簡研究会のご案内

※ 本研究会は、平成28年度JSPS科研費 26284010助成「Multi Disciplinary Approachによる新出土資料の総合的研究」（基盤研究（B））「出土資料と漢字文化研究会」との共催です。

古代中国宗教研究における宗教学の立ち位置 —「宗教」概念論・ポストセキュラリズム・死者性・ 呪術概念—

発表者：池澤優教授（東京大学大学院）

第79回目を迎えた今回の研究会は、池澤優教授（東京大学大学院）が担当し、最新の情報を盛り込んだ研究発表をいたします。

つきましてはご多忙中恐れ入りますが、下記のとおり開催いたしますので、ご関心をお持ちの方々多数お誘い合わせの上、是非ご参加下さい。

【池澤教授発表要旨】

本発表では、「宗教」概念論批判、ポストセキュラリズムなどの最近の宗教学理論を古代中国宗教の分野で論じると、どのような議論になるかを論じます。

1990年代以降、世界的に見て「宗教」という領域自体の溶解が著しく、もはや「宗教」という領域にこだわって宗教が論じられないことが宗教学のテーマになっていると言えますが、考えてみれば、「宗教」という領域を設定することは近代西洋の産物であって、古代中国に「宗教」という領域はありませんでした。「宗教」とそうでないものを区分することをやめることで如何なる議論が可能なのでしょうか、あるいは「宗教」的な概念（例えば呪術）を用いることは生産的なのでしょうか。

そのような問題関心から、古代中国宗教に関しては、1)「儒教は宗教か」論争とは何だったのか、2)祖先(死者)崇拝と墓碑における死者の「記憶」の連続性、3)戦国秦漢時代における人格神的世界観から機械論的世界観への変転（陰陽五行説を「呪術」とすることは生産的なのか）の三点を論じます。

日時：2016年7月22日（金）午後2時～午後5時

場所：日本女子大学新泉山館国際交流センター2階会議室3

- 使用言語 日本語
- 参加費 無料
- 研究会終了後、懇親会あり。

連絡先：東京都練馬区中村南1-12-5

東京大学名誉教授 池田知久 電話：03-3926-8568